

事案名	女川町の事案（宮城県４－１）
フォローアップ調査資料	・「宮城県女川港における爆発物等の調査処分について（報告）」〔１〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国内における毒ガス弾等に関する調査について（報告）」平成１６年２月１６日〔Ａ１〕</li> <li>・宮城県追加資料 平成１６年７月２７日〔Ａ２〕</li> <li>・『女川町史』〔Ａ３〕</li> <li>・『平成１６年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔Ａ４〕</li> </ul>
平成１５年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>地元のレジャーダイバーが砲弾を発見し、自衛隊が調査、引揚げ後、黄色泡状のガスが噴出し始め刺激臭がしたため、地元との協議により、木箱にコンクリート詰めにし、建設中の岸壁付近の土中に埋められた。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和５２年７月３１日に、地元のレジャーダイバーが砲弾を発見したとの情報から自衛隊が出動した。８月７日に調査したところ、物件は米軍の３００ポンド爆弾に似ていた。引き上げ後、破口部から黄色泡状のガスが噴出し始め、重油の中に、からしに似た刺激が混同した臭いであった。地元と協議し、木箱にコンクリート詰めにし、建設中の岸壁付近の土中に埋めた〔１〕。</li> </ul>
新たな情報	<p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和５２年８月１２日付の新聞報道によれば、昭和５２年８月７日に海上自衛隊横須賀水中処分隊が揚収してセメント詰め後に埋設した毒ガス弾と疑われた砲弾について、８月２３日に掃海艇で横須賀まで運び処理することが１１日に決まったと記されている〔Ａ１〕。</li> <li>・処理を行った業者は、自衛隊員の指示で埋立地に穴を掘り、コンクリート詰にした爆弾を穴の中に置いた記憶がある、不発弾は掃海艇に積み込まれ搬出されたと証言している〔Ａ２〕。</li> <li>・元県職員は、当時の日記に、発見された不発弾は、自衛隊の輸送車により陸上搬出されたと記している〔Ａ２〕。</li> </ul> <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦時中、女川は空襲の被害を受け、港内で艦艇４隻が沈没した。戦後、沈没艦艇の引き揚げは、民間の請負により昭和３２年までかかって終了したようである、との記載がある〔Ａ</li> </ul>

3 ]。

- ・昭和20年8月9日に、カナダ人パイロット操縦の飛行機が女川湾に墜落したとの情報があり、その位置は砲弾発見地点周辺であった〔A4〕。